

文献ゼミ

『建築論』 森田健一著

西洋建築思潮史
4 ルネサンスの建築思想
p.195-p.206

新しいルネサンス文化

	思想的原理	建築師	建築
中世	キリスト教文化→神・神秘的	職人頭	建築家の術
ルネサンス	古典文化→人間・世間的	建築家 万能の人	美的な術

ウィトルウィウスの建築書を元にして建築家が自己の理論を組み立てる

アルベルティの建築論

res aedificatoria(建築術)

└ structura(構築)

soliditas(堅固),perpetuitas(持続的),
aeternitas(永久化)

…強

└ lineamentum(造形)

necessitas(必然性)



oportunitas(効用性)

…用



voluptas(よろこび)

…美

} 用を満たすための原理
…partitio
(用に即する形の原理)

アルベルティの建築美論

建築美 = concinnitas(調和的な構成)があること
= 個人の主観に属すること
+ 客観的な宇宙秩序の中に含まれること



満たすための三原理

- numerus...ordinatioに通じる数の原理
- finitio...harmoniaより生ずる数比による限定
- collocatio...dispositioに相応する配置の原理

建築造形の三領域の関連性

necessitas, oportunitas, voluptasの価値観、関係性は論理的に明確であるとは言えない

→アルベルティの建築造形の価値観はルネサンス期の感性主義と対応する

盛期ルネサンス期の建築思想

16世紀の建築家が建築書を出版

アルベルティ、
ルネサンス期の建築家



建築造形技法と
裏付けのための理論

16世紀の建築家



オーダーを命題
理論から技法・流儀へ移行

パツラディオの建築論

utile o commodita(効用または便利),perpetutia(耐久性),bellezza(美)
= ウィトルウィウスの用、強、美

用/美の原理corrispondenza(統一性)

- ・ 数…harmoniaによる比例
 - ・ 形…円・正方形・矩形
 - ・ 配列…左右対称
- 古典的
ルネサンス的

オーダーを部分とし、
全体の中で統一性を保つものとして扱われている